

2-4

非常時における放射性物質に対する防護

原子力発電所や放射性物質を扱う施設などの事故により、放射性物質が風に乗って飛んで来てしまうこともあります。

その際、長袖の服を着たりマスクをしたりすることにより、体に付いたり吸い込んだりすることを防ぐことができます。屋内へ入り、ドアや窓を閉めたりエアコン（外気導入型）や換気扇の使用を控えたりすることも大切です。なお、万一、放射性物質が顔や手に付いたとしても、洗い流すことができます。

その後、時間がたてば放射性物質は地面に落ちるなどして、空気中に含まれる量が少なくなっています。地面等に落ちた放射性物質は除染し、被曝量を減らす対策をとる必要があります。
→p.7



2-5

退避や避難の考え方

放射性物質を扱う施設で事故が起り、周辺への影響が心配される時には、市町村、あるいは県や国から避難などの指示が出されます。

家族や先生の話や、テレビ・ラジオなどから正確な情報を得ること、家族や先生などの指示をよく聞き落ち着いて行動することが大切です。自分の身を守るためにも、家族や隣人の命を守るためにも、誤った情報や噂に惑わされず、混乱しないようになります。

また、事故後の状況に応じて、指示の内容も変わってくるので、情報を的確に捉えられるよう、注意が必要です。

自分で判断、行動できるようになるためには、避難方法や家族との連絡方法を確認しておくとともに、日頃から地域の原子力施設と自宅・学校・職場等の位置関係、放射線モニタリングの情報や気象情報（特に風向や降雨）などに注意を払うことが大切です。

退避・避難する時の注意点		
<p>正確な情報に基づいて行動する</p> <ul style="list-style-type: none">一斉放送、広報車、ラジオ、防災無線など	<p>屋内退避</p> <ul style="list-style-type: none">ドアや窓を閉めるエアコン（外気導入型）や換気扇の使用を控える食器に蓋をしたりラップを掛けたりする	<p>避 難</p> <ul style="list-style-type: none">ガスや電気を消す戸締りをしっかりする避難場所へは徒歩で持ち物は少なく隣近所にも知らせる

退避と避難は、どちらも放射性物質から身を守ることであり、「退避」は家や指定された建物の中に入ること、「避難」は家や指定された建物などからも離れて別の場所に移ることです。